

あす 未来に架ける橋

平成 26 年 11 月
沼尾 利郎



写真 1

1 碓氷峠めがね橋

昭和 39 年（1964 年）に東海道新幹線が開通してから満 50 年を迎え、様々な記念行事が行われています。最近では男性だけでなく女性の鉄道マニアも増えているようですが、この夏私は群馬県の碓氷峠にある旧国鉄の廃線跡を歩き、明治から昭和にかけての近代化遺産を見聞しました。信越本線の横川—軽井沢間は通称・碓氷線と呼ばれ、明治時代には群馬県下の養蚕地帯と製糸業の中心だった長野県諏訪地方を結ぶ重要な路線でした。横川と軽井沢間は直線距離でわずか 8.5 キロ余りですが標高差は 552.5 メートルもあり、この急勾配を非力な蒸気機関車で上り下りするために採用されたのが、「アプト式」という方法だったのです。「アプト式」とは、2 本のレールの中央にギザギザの歯を持つラックレールを敷設して、この歯と車両側の歯車をかみ合わせることで急勾配を上下する鉄道技術の 1 つであり、現在では碓氷線の跡は遊歩道「アプトの道」として整備されています。碓氷峠に残る鉄道遺産群の中でもっとも有名なのが「めがね橋」であり、長さ 91 メートル、最大高 31 メートルの 4 連アーチを国道 18 号から見上げると、その偉容に圧倒されます（写真 1）。レンガ造りの橋梁として国内最大規模を誇るこの「めがね橋」は、明治の鉄道マンにとって当時最高の知識と技術を結集した、危険と隣り合わせの「命を懸けた橋」であり、「日本の近代化には鉄道が不可

欠である」という信念の下で果敢に難関に挑んだ「未来に架ける橋」でもあったのです。

2 古くてカッコいい

碓氷峠の「めがね橋」には明治の先人たちの矜持^{きやうじ}が感じられ、レンガの古さがいかにもカッコいい建築物でした。このように、「古くて時代遅れ」と思われていたものが若者の感覚を取り入れて新しく生まれ変わったり、見直されて人気が出てきた例が最近増えています。ただの平凡な古民家がおしゃれなカフェに変身したり、長く使われなかった大谷石の倉庫が今風のレストランに再生して利用されることは、地域活性化の点からも歓迎すべきことであり、身近な例では昭和初期に建てられた石蔵を建築家の隈研吾さんが現代風に再生した、那須芦野のSTONE PLAZA（石の美術館）が有名です（写真2）。隈さんは私と同年代で若者ではありませんが、一流の建築家には時代が求めるものや未来の造形がわかるのでしょうか。今の若者にとっては、古い時代の建物や車、ファッション、音楽、美術などはかえって新鮮に感じられ、「古いけどカッコいい」のではなく「古さがカッコいい」「古くて新しい」という感覚なのではないでしょうか。大震災を経験して再生可能エネルギーや環境、リサイクルなどの重要性を再認識した我々ですが、日本の社会が英国のように「古いものを大事にする成熟した大人の社会」になりつつあるのかもしれない。

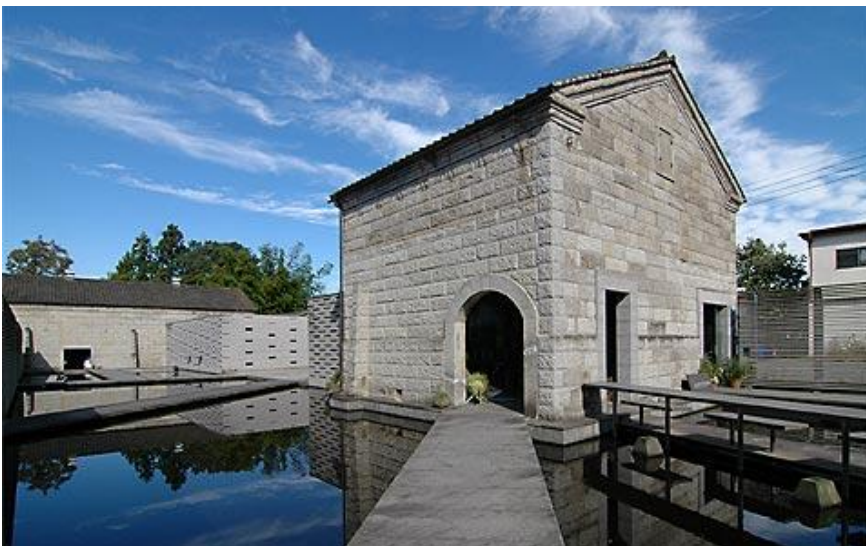


写真2

3 古い病院の新しい病棟

「古くて新しい」といえば、当院の新病棟（6階建て、免震構造）が完成して平成26年11月より運用を開始しました（表1）。当院の前身である旧国立療養所の1つは昭和4年に創設されていますので、当院は今年で創立85年ということになります。医療を取り巻く環境の変化に応じて、病院の診療機能や診療体制も大きく変化してきた訳ですが、長い歴史の中には経営的に厳しい時代もありました。しかし、近年では医療の質の向上だけでなく、「6年連続黒字決算」のように経営の質の向上にも一定の結果を出しています。

表1 新病棟の機能（写真3）

新病棟	病棟機能	病床数
6階	機能訓練室、リハビリテーション広場	—
5階	一般・結核ユニット病棟	60床
4階	地域包括ケア病棟	60床
3階	手術室、中央材料室、機械室	—
2階	重症心身障害病棟、家族控室、屋上広場	50床
1階	重症心身障害病棟、療育訓練室	50床

1階は重症心身障害50床であり、歩行の困難な患者さんが床での寝返りや座位での移動ができるように、プレイルームは床暖房付きのフローリングとなっています。2階も重症心身障害50床であり、長期入院中の患者さんが家族と一緒に宿泊できる「家族控室」やボランティア室があります。3階は手術室（5室）と中央材料室があり、今後の件数増加にも対応可能となっています。

4階は地域包括ケア病棟60床であり、治らない病気や重い障害があっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしが続けられるよう、自宅復帰に向けたリハビリテーションや生活支援を行います。5階は一般と結核のユニット病棟で両ユニットの空気の流れは分かれており、全体の3分の1は個室です。6階は3面ガラス張りの機能訓練室と屋外リハビリテー

ション広場（ウッドデッキ）があり、「森を見下ろす天空のリハビリ室」として、患者さんには爽快な気分での機能訓練に励んでいただきたいと思います。

今回の新病棟は病院機能全体の約半分であり、残りの病棟や外来棟・管理棟などを含めた全面建て替えが今後の大きな目標ですが、新しい病棟が将来の地域医療を担う若い医療人にとって「未来に架ける橋」となることを願っています。



写真3